

醒井養鱒分場

1. 沿革

- 明治11年 琵琶湖のビワマス資源の増殖を図るため、醒井村枝折字東出川に県営枝折孵化場を開設。
- 12年 現在地（坂田郡米原町上丹生）に移転。
- 18年 ビワマスの放流事業を条件に近江八幡市の西川氏に払い下げ西川養魚場となる。
- 38年 大阪市の藤野氏が譲り受け惣谷藤野養魚場となる。
- 昭和 4年 県営に復帰、滋賀県水産試験場付属醒井養鱒場となる。
- 16年 滋賀県水産試験場醒井分場と改称。
- 26年 滋賀県醒井養鱒試験場として独立（独立採算制）する。
天皇陛下行幸。
- 39年 39年度入場者数425,058人を記録する。
- 52年 滋賀県醒井養鱒場と改称。
- 56年 この年から5年かけて餌付池、稚魚池を整備。
- 62年 本館庁舎新築、研修施設併設。
- 平成 3年 屋内休憩所（せせらぎ棟）の整備。
- 4年 採卵場の整備。
- 9年 ふれあい河川の設置、親魚池、排水処理施設の整備。
- 12年 滋賀県水産試験場醒井養鱒分場となる。
養鱒事業、県漁業協同組合連合会に委託。
- 13年 高円宮殿下ご視察。
昭和34年築のふ化場を全面改築、昭和37年築の試験池を解体。
- 14年 試験池跡地に親魚養成棟を新築、トラウトミュージアム回廊を整備。